



国語

(9 : 10 ~ 10 : 00)

注 意

- 1 検査開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから10ページに、問題が一から三まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学二年生のソラは、同級生のハセオに誘われて、俳句を創作するようになり、俳句の魅力に引き込まれていく。ソラたちは、ヒマワリ句会を作り、同級生のユミも参加することになった。三人は、意欲的に俳句を創作している。

学校で行われた俳句大会で優勝したユミは、校長先生からの「豪華景品」を受け取りに行った。

そういえば、今年は雪が降っただろうか。ひどく寒い日に一日降ったようにも、けっきょく一度も降らなかったようにも思う。ハセオは、ああいう句を作ったということは、どこかで雪を見たのかもしれない。校長先生から聞かされた、ハセオの話を、ユミは思い出していた。春休み前、「豪華景品」を受け取りに行ったときのことだ。なんのことはない、校長先生が学生時代に出した詩集を、自費出版で立派な装丁の本にしたものだった。タイトルは、『青春はがんもどき』。気持ちはうれいけど、こういうのをもらって、喜ぶ子はいらぬだろうか……。でも、「造本に凝^①って、時間がかかってしまったよ、ほらこのフランス装^{注2}がきれいでしょ？」とうれしそうな校長先生を前にして、顔を見せるわけには、いかなかった。

それよりも、ユミにとって重要だったのは、「ヒマワリ句会のハセオくんだけだね。」と前置きをして始まった話のほうだった。「俳句大会の開会宣言のあとで、私に直談判^{じかだんぱん}を求めてきたんだ。」校長

手掛かりにボックスの中の大量の投句の中から、ハセオの句を探しだしたのだろう。ユミにとっては、記名欄を確認する必要はなかった。まぎれもなく、ハセオのくせの強い字で、

雪がふるそらのことばを受け止める

と書いてある。「その句はね、大会では、三点しか入っていなかったんだ。でも、私はいい句だと思う。あなたはどうか？」ユミは、その短冊の字を、何度も目で追った。追うだけではなくて、思わず一度、口に出してもみた。まちがいない。それは、ユミが、自分のサクラシールを貼った句だった。ヒマワリ句会に出るようになって、たくさんの言葉とめぐりあった。誰かの言葉にも、そして自分の中に潜んでいた言葉にも。今まで聞いたことのない言葉もあった。なじみのある言葉であっても、それががらりと違って見えたこともあった。言葉は、とても頼りない。形がなくて、すぐに消えてしまう。まさに、雪のように。でも、その言葉を受け止めて、一歩踏み出すことができたのも、ゆるがない事実だ。この学校に、自分と同じように言葉に助けられた人がいたということがうれしくて、最終的にこの句を選んだのだった。やっぱり、ふざけなければ、いい句も書けるじゃないか。もしいまここに、ハセオがいななら、その背中をばーん！と叩いてやるところだ。

「てのひらに降ってくる雪。それを、『そらのことば』と言いかえてみせたのは、あつと驚くマジックじゃないかい？ ふつうは『空の言葉』と書くところ、ひらがなにしているのはきつと、そのことで、雪のつぶのやわらかさを表現したかったんだと、私は思う。」校長先生は、ユミの感想も待たないで、少し興奮した口調^②で、鑑賞の弁を述べた。

室に、いきなりやってきたハセオは、言いたいことがあるという。校長先生の発言を取り消してほしい、と。俳句は伝統文化。そう言った先生の言葉が、どうしても許せないのだという。伝統文化と言ったとたんに、^{注3}祠の中の神様みたいになるのが、自分はいやだ。俳句は確かに昔からあるけれど、いまの自分の気持ちや、体験を盛るための器として、自分は俳句をやっている。校長先生の発言は、「いま、この詩」として、俳句を作っている自分たちを、ないがしろにするものだ。「彼の言葉が、ぐさつと胸に突き刺さってね。」俳句とはなにか、詩とはなにか。生徒から問われた気がしたのだという。「あの生徒も、やはり、わが校の誇りだよ。」校長先生は、私も考えがあつて言ったことなので、^①発言の取り消しはしないが、あなたから与えられた「宿題」として、あなたの卒業の日までに、考えておくと返したそうだと。ハセオは、それでいちおう、満足した様子だったという。校長先生に自分が「宿題」を出したというのが、うれしかったのかも、などとユミは思う。あいつは、いつも宿題に苦しめられていたから。「この本を出そうと思ったのも、彼の言葉がきっかけだったんだ。——ところで、俳句大会に彼が出した句を、君は知ってる？」ユミは頭を振る。本人に聞いても、適当にはぐらかされたまま、いまに至っていた。

校長先生は少し考えてから、「君は彼と同じ句会の仲間、つまり句友だしね。俳句大会の優勝者でもある。感想を聞いてみたい。彼には、私が伝えたことは、内緒にしておいてくれよ。」と断ってから、「こんな句なんだ。」と、一枚の短冊を渡した。俳句大会の投稿用紙として、使われたものだ。短冊の裏に、クラスと名前を書く欄があるから、それを

たしかに、その通りだ。でも、ハセオの句と知ったいま、ユミは隠された意図をそこに読み取っていた。これは挨拶なんだ。ハセオから、ソラへの。「そら」には、かけがえのない友人の名前を、掛けてあるのだ。もうすぐやってくる、あのふたり。たぶん、たがいにあることを知らない。ユミが知っていることも、知らないだろう。そして、^④知らないままでいい。私たちは、句友だ。たがいへの思いは、だからだと語らなくても、じゅうぶんわかっている。

(高柳克弘「そらのことばが降ってくる」による。)

(注1) 装丁 || 書物の外側のデザイン。

(注2) フランス装 || 製本方法の一つ。

(注3) 祠 || 神をまつった小堂。

1 ㊦㊧の漢字の読みを書きなさい。

2 に当てはまる最も適切な表現を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア 物知り
- イ 得意げな
- ウ 不満げな
- エ 何食わぬ

3 ① いま、この詩」とあるが、ハセオが、このように言ったのはなぜですか。その理由について述べた次の文の空欄Ⅰに当てはまる適切な表現を、十五字以内で書きなさい。また、空欄Ⅱに当てはまる最も適切な表現を、本文中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

俳句を伝統文化と言ってしまうと、俳句が、祠の中の神様のよう
に (Ⅰ) (Ⅱ) 存在になっってしまうが、ハセオにとって俳句とは、
(Ⅱ) (Ⅲ) であるから。

4 ② そらのことば」とあるが、次の文は、ハセオが作った俳句のこの部分に対する校長先生の解釈をまとめたものです。空欄Ⅲに当てはまる適切な表現を、三十五字以内で書きなさい。

「そらのことば」は、てのひらに降ってくる雪を言いかえたものであり、 (Ⅲ) (Ⅳ) のではないかと、校長先生は解釈した。

5 ③ 自分のサクラシールを貼った句」とあるが、本文中にユミが俳句大会でサクラシールを貼り、この句を選んだ理由が述べられている一文があります。その文のはじめの五字を抜き出して書きなさい。

(1) 空欄Ⅳに当てはまる適切な表現を、五十字以内で書きなさい。

(2) 次の【ノート】は、【生徒の会話】のあとに、清水さんたちが、話し合いの内容を踏まえて、ノートに書いたものです。この【ノート】の空欄Ⅴに当てはまる適切な表現を、俳句の特徴を踏まえて、六十字以内で書きなさい。

【ノート】

○ユミが「知らないままでもいい」と思った理由
三人は、 (Ⅴ) (Ⅵ) という関係にあるから。

6 ④ 知らないままでもいい」とあるが、この描写について、国語の時間に生徒が班で話し合いをしました。次の【生徒の会話】はそのときのもので、これを読んで、あとの(1)・(2)に答えなさい。

【生徒の会話】

清水… ユミが「知らないままでもいい」と思っているのは、俳句大会のハセオの句は、 (Ⅶ) (Ⅷ) ということと、それをユミが知っているということだよ。知らないままでもいい」ということは、ユミはそのことをソラとハセオには伝えないんだよ。

川上… 三人は、仲の良い友人だから、伝えなくてもいいということだよ。とだと思っよ。

藤井… そうかな。ユミは「私たちは、句友だ」といっているよ。ユミは、三人が、俳句を通してつながっているということを強く意識しているのだと思うよ。句友であることを踏まえて、三人の関係を考えたらいいと思うよ。

清水… 句友ということは、俳句の特徴も関係するのかな。

二 次の【文章1】・【文章2】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章1】

自然環境の保全は、その担い手である地域社会にとってまさに「言うは易く行は難し」なテーマの一つだと思えます。部外者がその生き物は大事だ、保全しろ、と言ったところで地域社会にとってメリットがなければ、貴重な時間やお金を投じるのは躊躇するのではないのでしょうか。逆に言えば、自然環境の保全を充実させるためには、^①地域社会が保全を通じて持続的に経済的な利益を得られる仕組みを構築することが求められているのです。

自然環境を活用した観光は自然を直接消費せず、保全成果を直接的な経済収益に繋げることのできる数少ない産業ですが、実際には無秩序な観光の促進によって自然環境が劣化する事例が散見されています。その原因は多岐にわたりますが、関係者がその地域の自然環境の質と観光の経済効果を十分に紐づけて理解していないこと、その地域で環境保全を強化・促進することが地域経済にどれだけ影響をもたらすのか具体化できていないこと等が理由として挙がるのではないのでしょうか。

(国立環境研究所ウェブページによる。)

(注1) 躊躇 〓 ためらうこと。

(注2) 紐づける 〓 二つ以上の事柄の間につながりをもたせること。

「よう、どうやって説得したのだろう。私の問いかけにアラナノはこう答えた。」「魚を捕るだけでなく、育てる場所も必要だ」と言いました。『保護区をつくれれば、そこで魚が増えて、外にあふれてくる。それは皆さんのものです。保護区の海は魚だけでなく、皆さんや未来を育ててくれるんです。』とね。保護区はいずれダイビング・スポットになるから、その収入も見込めると説明しました。」

「将来的に利益が得られる保証はなく、沿岸住民の多くは保護区に反対だった。アラナノは訴訟をいくつも起こされ、脅迫も受けた。それでも彼は、「町長になったとき、私はこの仕事に命を預けましたから。」と意に介さない。」

「漁師の家に生まれたわけでもないのに、なぜそこまで^②ジョウネツを傾けるんですか？」と、私はアラナノに尋ねた。

「私は鉱山技術者なんです。」と、アラナノは語り始めた。「政治の世界に入る前は採掘会社で十二年働き、多くの山を爆破しました。」

たくさん環境破壊をしてきたんです。一度壊された環境は人間の手で元に戻すことができないと、そのとき学びました。お金がいくらあっても食べていけないことに気づくのは、最後の魚を殺した後でしょう。」

アラナノは在職中の九年間に、ダウイン沿岸のMPAを四カ所から十カ所に増やした。そのいくつかに潜ってみると、小規模ながらも、チンアナゴなどの珍しい生き物が見られた。

予想通り、保護区の美しい景観は観光客を呼び込んだ。フィリピンを構成する七六一の島々のなかで、人気のダイビング・スポットは数十カ所もあるが、ダウインもその一つになった。この町のMPAには、

【文章2】

ネグロス島のダウインでは、サンゴ礁を保護して海洋生物に対する^⑦フカを減らしつつ、沿岸の集落の生活を維持する努力が実を結んでいた。

この試みを始めたのは、フィリピン人の生物学者で、地元の自治体が管理する小規模な海洋保護区(MPA)の設置を提唱したアンヘル・アルカラだ。こうした保護区の主な目的は生物多様性を守ることだが、彼の念頭にあったのは漁業に利益をもたらすことだった。「フィリピンの人々は魚が主食です。」ダウインの北にあるシリマン大学の研究所で所長を務めるアルカラは私にそう言った。「それを維持するために、海洋保護区が必要なのです。」

一九七〇年代初頭、アルカラは二つの保護区を試験的に設定した。一つは人間が^⑧グらしている島(ダウイン沖のアポ島)の近くで、もう一つは無人島(セブ島近くのスミロン島)の近くだ。どちらもいかなる手段による漁も禁止にした。

その結果は目覚ましいものだった。^⑨十年後、二つの保護区では生物量が増え、少なくとも六倍になった魚種もあった。生息密度が高くなったことは、漁師に恩恵を与えた。保護区から外の海域に「あふれ出した」魚は、合法的に捕獲できるからだ。

この成功に注目したのが、二〇〇一年にダウインの町長に選ばれたロドリゴ・アラナノだ。アラナノはダウインの海岸線に沿って保護区を増やすことに決めた。

しかし、自給自足で漁をする人々に対し、昔からの漁場の一部を諦め

タツノオトシゴMPAなど、各海域の呼び物である魚の名前がついている。

観光業がさかんになるにつれて、サービスマンに転じる漁師も出てきた。^⑩セブ島沿岸のオスロブでは、漁業組合の組合員で実際に魚を捕っている者はほとんどいない。観光客がジンベエザメと泳ぐツアーで十分稼げるのだ。ミンドロ島のプエルト・ガレラの近くでは、漁師が観光客をカヌーに乗せて、シユノーケリングでシャコガイを見られるポイントまで運んでいた。

(「ナショナル ジオグラフィック 日本版二〇二二年六月号」による。)

1 ㉗㉘のカタカナに当たる漢字を書きなさい。

2 に当てはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア たとえば イ さらに ウ なぜなら エ だが

3 ㉙㉚を、事実と意見に分けたときに、事実であるものにはアを、意見であるものにはイを、それぞれ書きなさい。

4 ① 地域社会が保全を通じて持続的に経済的な利益を得られる仕組みとあるが、【文章2】で述べられているアンヘル・アルカラが考えた同様の仕組みを、五十字以内で書きなさい。

5 次の【ノート】は、ある生徒が【文章1】・【文章2】を読んで考えたことをノートに書いたものです。この【ノート】の空欄Iに当てはまる適切な表現を、四十五字以内で書きなさい。

【ノート】

【文章2】では、ロドリゴ・アラナノの海洋保護区の取り組みの成功によって、ダウインの保護区には美しい景観がもたらされ、観光業がさかんになったことが書かれていた。たしかに、この取り組みは、地域に新たな産業をもたらし、地元の人々に、新たな収入源を与えたという面では意義深い。

しかし、【文章1】の内容を踏まえて、ダウインのその美しい景観の今後について考えてみると、() I () ということが起こるおそれがあるのではないか。

問題は、次のページに続きます。

